

居合道 だより

第153号

はじめに
四月・五月の予定



はじめに

気がつけばこれが平成最後の居合道だよりになった。前任者時代を含めて足かけ13年の歳月を、書き続けて来たことになる。

この号が出る頃には新しい元号が発表されているだろうし、桜の花も満開だろう。もとよりたいした内容ではなかったが、続けるということの難しさを実感しながら、少しでも剣友のやる気が出ればという思いで書き綴ってきた。

平成最後の年はスポーツ界でも一時代の終わりや新しい時代の先駆けとなるような出来事があった。大リーグのイチロー選手が現役を引退した。日米通算4367本、前人未踏の安打数等、まさに記録にも記憶にも残る偉大な選手だった。どこか古武士然とした佇まいで、独自の世界を切り開いてきたイチロー選手にも当然新人時代はあったわけで、当時の監督仰木彬という名伯楽が、理論に合わないとして反対する者が多かったイチローの振り子打法を、容認して続けさせたことが才能を開花させた大きな要因となった。

一方、大相撲では新大関貴景勝が誕生した。彼は平成の孤高の大横綱、貴乃花の愛弟子だった。貴景勝は大関昇進時の口上で「大関の名に恥じぬよう、武士道精神を重んじ、感謝の気持ちと思いやりを忘れずに相撲道に精進してまいります」と言った。弱冠二十二歳の若者が、である。彼は、戦国時代の何ものをも恐れない、義に篤い一途な若武者を彷彿させる。

イチロー選手も貴景勝関も決して体格には恵まれていない。持って生まれた資質だけでここまで来たとは思えない。必ず人知れず、人の何倍もの苦しい努力をしてきたはずである。そして二人はそれぞれに、良い指導者に巡り会えた。

先月は平成の掉尾を飾る北九州居合道大会、そして県の審査会があった。試合や審査はいつの時代も悲喜こもごも、勝者と敗者がいる。居合の本質はそこではないと百も承知の上であえて言うなら、勝者になれなかった要因はいくつか考えられる。まずは本人の絶対的な稽古不足、そして指導者の力不足、双方の認識の甘さ。

表面だけの、安易に形に表れるような、すぐに結果が出るような稽古だけをしてはいないか。イチロー選手は念入りのランニングとキャッチボールに主力を置き、貴景勝関は四股と鉄砲に重きを置いたという。そして二人とも常に己を律し続けた。

冬の間、枯れ木にさえ見える桜の木は、その寒い時期にただじっとエネルギーを蓄え続けてきたからこそ、春になっての桜花爛漫なのである。

主な活動

3月 21日 木(祝)	北九州居合道大会	北九州県連	北九州総合体育館
3月 24日 日	居合道昇段審査		福岡武道館

三月・四月の活動予定

4月 7日 日	第49回福岡県剣道連盟武道祭	福 剣 連	福岡武道館
---------	----------------	-------	-------

2019年05月02日(木)～2019年05月05日(日)
第115回全日本剣道演武大会 京都府







© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第153号 平成31年4月1日発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL : <http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田 36 番地 -1

TEL:092-322-0847